



1 明北小 6 年総合『クラスの仲間と ラフティング』 9 月 3 日 (木)

1 学期、6 年生は、クラス全体の願いとして『明科を好きになってもらおう！』と、総合的な学習の時間の探究を始めました。各自“やりたいこと”を追究する中で、犀川に関心がある児童は、河川の流れる速さや深さ、水量などに興味を持ち、修学旅行で訪れる東京の河川（隅田川）との比較もしてみたいと考えました。そこで、川から見る明科のよさを探ることも含め、クラスの仲間と一緒にラフティング（万水川→犀川川下り）にトライしました。体験をお願いしたのは、明科の「安曇野清流川下り：あめんぼう」です。



バスで向かった県民豊科運動広場近くの、万水川ラフティング出発地点で水慣れをしました。子どもたちは、湧き水の透き通った水の冷たさと、川に入って遊ぶ楽しさを感じていました。遊んでいる間にボート 2 台が岸边に用意され、いざ出発です！緩やかな水の流れに乗って、子どもたちの漕ぐボートがゆったりと進んでいきました。



途中、大王わさび農場付近の水車小屋前に立ち寄りしました。ボートから下りて川の中に入り、水かけをしたり水面に浮かんだりして楽しみました。その先の、犀川の中州にも立ち寄り、普段は行き着けない場所で、ひとときを過ごしました。子どもたちにとって、クラスの仲間とラフティングを楽しんだことは、普段見ることのない川からの明科に新鮮さを感じつつ、自然の醍醐味や美しさを体感できる素晴らしい機会であったようです。



<子どもの振り返りから>

今日は、クラスみんなでラフティングをした。びっくりしたのは、万水川が拾ヶ堰と湧き水でできていると知ったこと。途中、水鉄砲をうち合って、ボート内で内戦が起きそうだったけれど、ギリギリ大丈夫だった。うち合いはめちゃくちゃ楽しかったし、奮闘してよかった。安曇野は、やっぱり湧き水がすごいんだなと思った。虫や鳥がたくさんいて自然が豊かだなと思った。万水川は、地区の行事の時は、あんなに波がたくさんなかったけれど、今日は、結構波がたくさんあった。水がだいぶ冷たかった。犀川は、万水川よりは温かかった。結構水はきれいだったし、川から見る明科は自然だと思った。東京とは全く別違いだと思うけど比べてみたい。でも川には、ナスが流れていたり、岸边には結構ゴミが流れ着いていたり、自然の管理はちゃんとした方がいいなと思った。川にゴミを捨てるなんてダメだと思ったし、ゴミを拾う活動は行った方がいいと感じた。波もすごくたくさんあった。けれど、なぜ木戸橋の下は、あんなに波が立っていたのかは不思議。

2 明南小5年総合『防災学習 ～命をつなぐ～』 9月7日（月）

近年、日本各地で大災害が頻繁に発生しています。ニュースでも、毎日のように報道され、見聞きした驚きを友だちと語る子もいます。明科は、合流した三川（犀川・高瀬川・穂高川）の水が流れ、洪水や土砂災害などが起きやすい地域です。そのような現状を踏まえ、明南小5年生は、安曇野市社会福祉会明科支所から外部講師をお招きし、防災学習を計画しました。

学習は、下記内容を5回に分けて行います。

1 防災・減災について	①頻発する災害について ②防災・減災とは ③災害の種類 ④避難施設など
2 防災マップ作り	①明南小学校区を4つの地域に分け、班ごとに地図を作成 □指定緊急避難所場所・市営避難場所・福祉避難所他の確認 □川・主要道路の確認
3 防災マップ完成	①4枚の地図の貼り合わせ □洪水・土砂災害想定地域のセロハン地図をかぶせて確認
4 振り返り・まとめ	①作成した防災マップを見ながら個人ワーク ②気づきを共有



初回の7日(月)、『防災』とは、「命をつなぐこと」、つまり「自分の命は自分で守ること」、そして「お互いに助け合って生き延びること」を学びました。作業を通し、自分たちが住んでいる明科地域は、ほとんどが洪水や土砂災害想定地域に入ることも知りました。

子どもたちは「自分の家が土砂災害区域にあってびっくりした。」「いつ起きるか分からないから、確認しておかなければ。」「家族と話すことが大切だな。」等つぶやいていました。学習を進め、子どもたちの災害や防災等に関する意識が、更に高まることを願っています。